

取扱説明書

自走式草刈り機

『フレックスモアー』

FL510



0266-70000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《解梱後の組み立てについて》	6
《各部の名称》	7
《各部のはたらき》	8
《方向について》	8
《エンジンをかける前に点検しましょう》	9
エンジンオイルの点検	9
燃料の点検と補給	9
エアークリーナーの点検	9
《運転操作のしかた》	10
刈り高さの調整	10
エンジン始動	10
刈り取り作業	11
方向変換	11
斜面での刈り取り	11
作業終了後	12
《長期保管のしかた》	13
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》	14
ナイフの点検・交換	14
ナイフの修正	15
《ワイヤの調整》	16
《可動部への注油》	17
《ベルトの交換とベルト押えの調整》	18
《エンジンの点検・整備・調整のしかた》	19
エンジンオイルの点検・補給・交換	19
点火プラグの点検・調整のしかた	19
エアークリーナーの清掃のしかた	20
燃料パイプの点検のしかた	20
燃料フィルターの掃除のしかた	21
その他の点検	21
《仕様》	22
《機械を他人に貸すときには》	22
《工具袋・同梱品明細》	23
《消耗品明細》	23
《定期自主点検表》	24
《エンジン定期点検表》	25
《自己診断表》	26
《エンジンの不調とその処理方法》	27

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

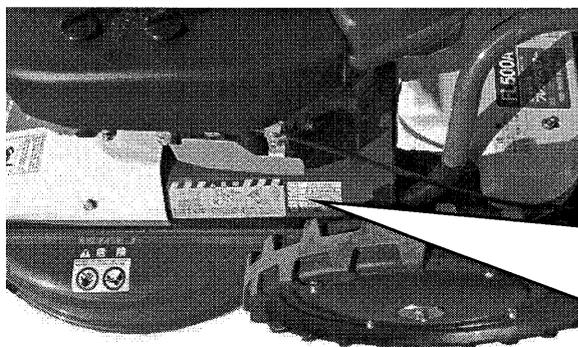
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品を、芝・雑草刈り以外の目的に使用しないで下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(専業としての使用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式名と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。



種類 Description	草刈機(歩行型)
型式名 Model	FL510
製造番号 Serial No.	
発売元	オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD. MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON	

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

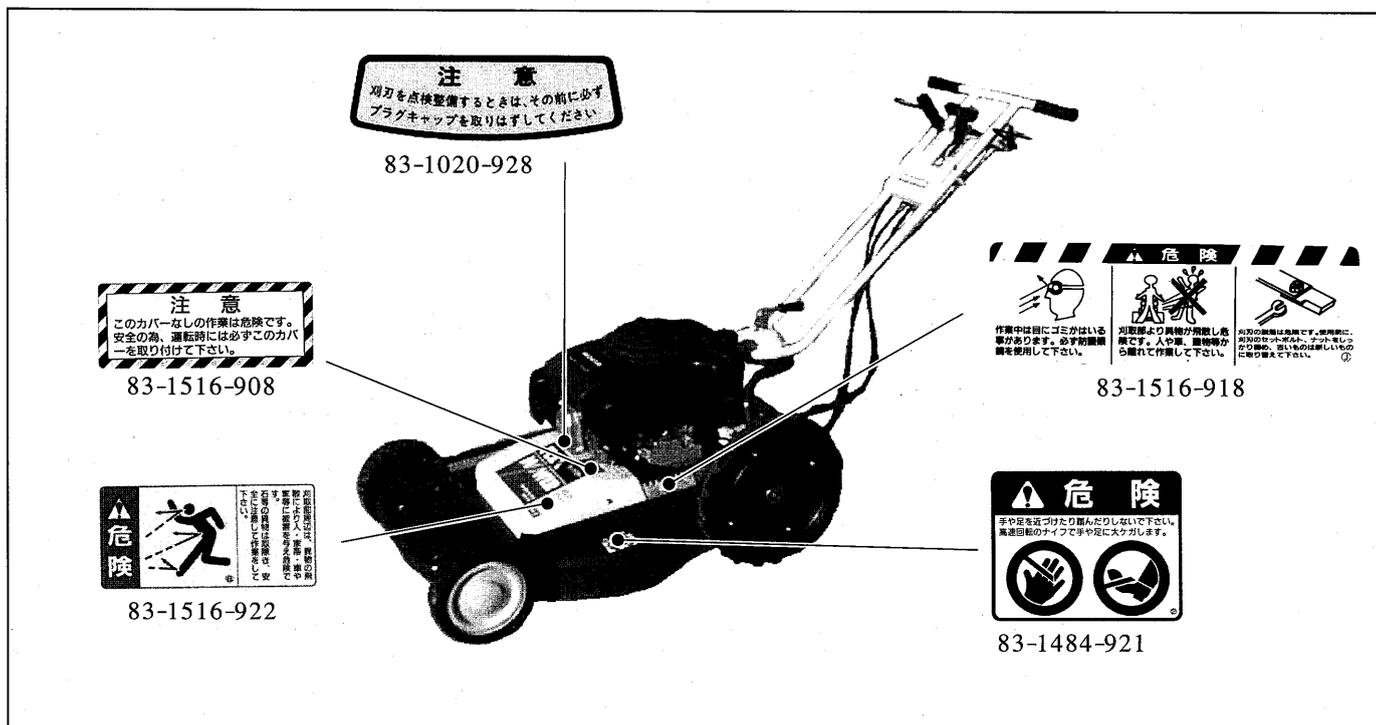
シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

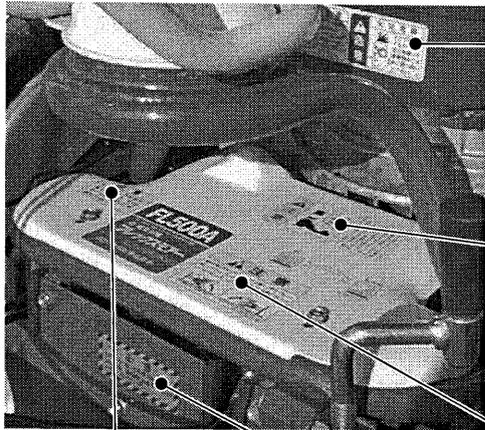
《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。 〈23頁…消耗品明細 頁参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



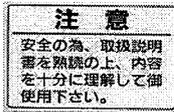


警告	車への乗せ降ろし	傾斜地での使用	後進時
	車への乗せ降ろしの際には転落しないよう、十分に注意して下さい。(15°以下)	傾斜地での作業は10°以下とし、作業前には境界表示を行い安全運転を心掛けて下さい。	後進の際には旋回との挟まれ、崖からの転倒に十分注意を払って下さい。

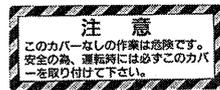
0253-72500



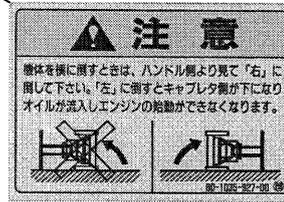
0209-90200



83-1516-915



83-1516-908



83-1035-927

(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。
- ▲ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。
- ・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。
- ▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。
- ・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。
- ▲ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。
- ▲ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。
- ▲ 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・ 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ ナイフクラッチと走行クラッチが「切り」位置の時、ナイフとタイヤが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止し、ベルト押え、ワイヤを調節して下さい。
- ・ 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

▲ 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・ 平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・ 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

▲ 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

▲ 安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

▲ ガソリンの補給・排出、キャブレター及び燃料系部品の分解・調整のときは、タバコを吸ったり、その他のいかなる火気も近づけないで下さい。

- ・ 給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・ エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・ 走行クラッチ、ナイフクラッチを『切り』位置にしてから始動して下さい。
- ・ 回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

- ・ 平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ 丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろし共にデフロックを『入り』にし、前進「①」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

(6) 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲ 排気マフラーは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。(該当製品)

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

▲ 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。必要に応じてスネ当て等の保護具を着用ください。

▲ 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近づけないで下さい。

▲ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

▲ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換をして下さい。

(7) 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

▲ ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けして下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

▲ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

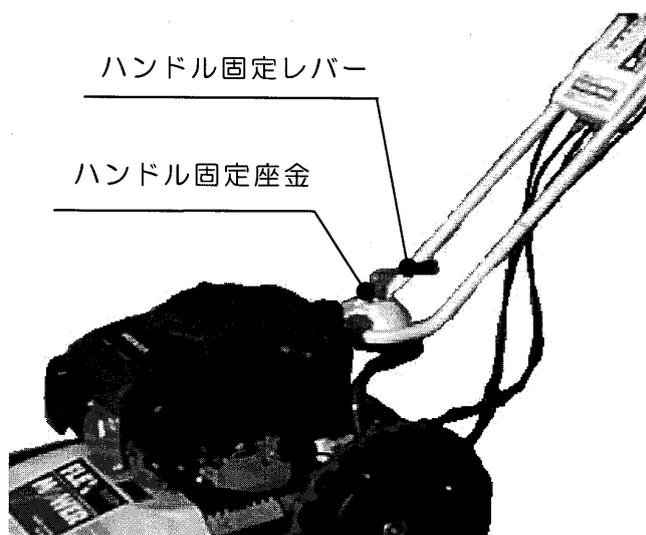
・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

▲ 注意：

本機を傾ける時は、ハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。

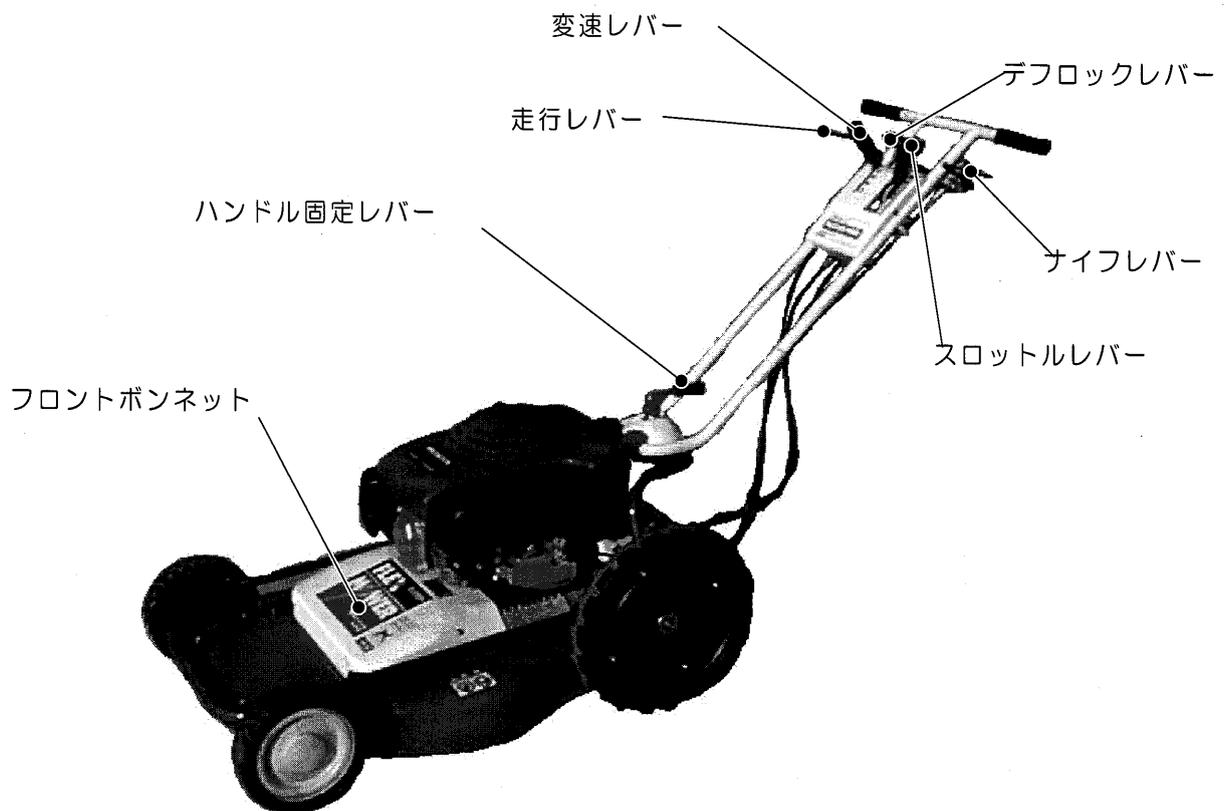
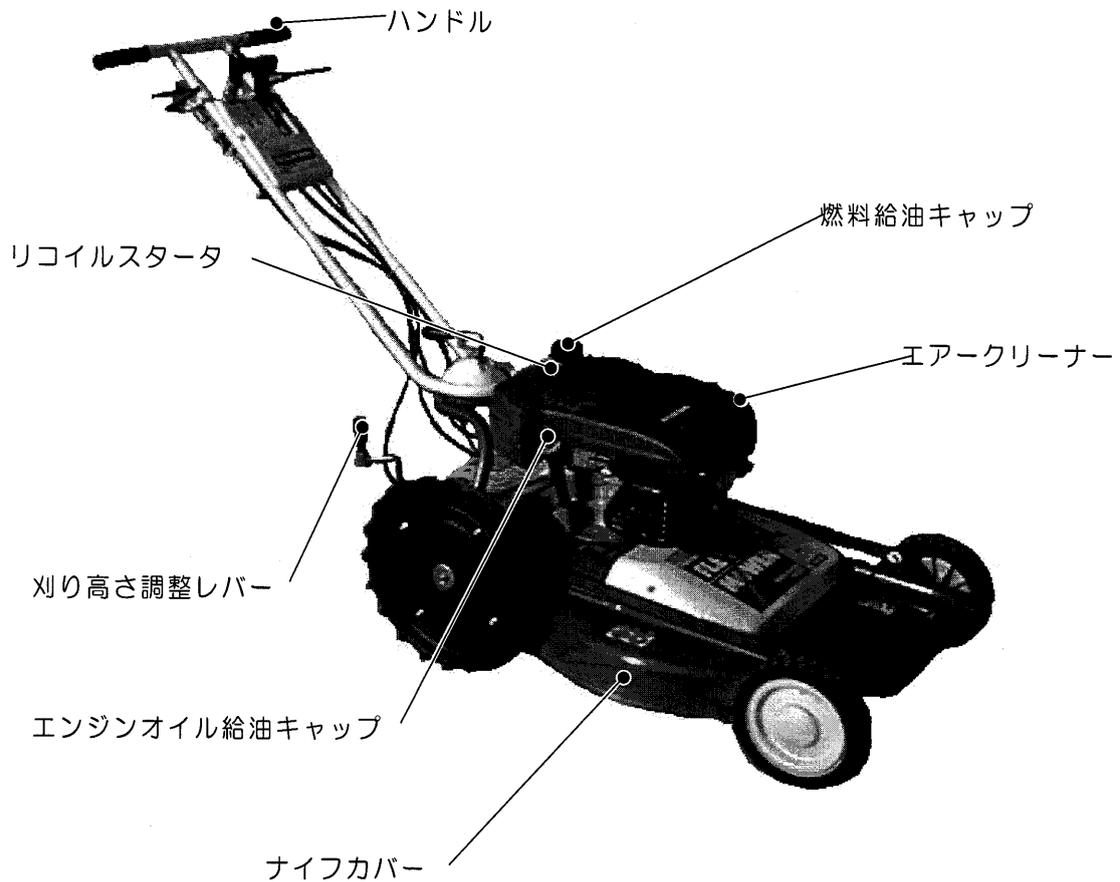
《解梱後の組立てについて》



ハンドルの組立て

- (1) ハンドルを本体のハンドル回転台に取付けます。
- (2) ハンドル固定座金とハンドル固定レバーを上から締め付けハンドルを固定します。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

①走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。

レバーを手前に引き倒すと『入り』位置、レバーを離すと『切り』位置に戻ります。

②ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。

レバーを手前に引き倒すと『入り』位置、レバーを離すと『切り』位置に戻ります。

③変速レバー

走行速度の選択時に操作します。

前進が『1』・『2』・『3』の3段階、後進が『R』の1段階です。

▲ 注意

変速する場合には走行クラッチレバーを『切り』位置に戻した後に操作してください。

④スロットルレバー

エンジン始動、停止、回転数の増減を調整します。

レバーは手前から『STOP』・『LOW』・『HI』・『N』となります。

⑤デフロックレバー

左右後輪の回転の差動と直結を切り替えます。

このレバーは、通常『切り』位置で使用して下さい。

レバーを手前に引き倒すと『切り』位置、前方に倒すと『入り』位置となります。

傾斜地や地面が軟弱な場所の作業で片側の後輪だけ回転し走行しにくい場合や、トラックへの積み下ろしの際にデフロックレバーを『入り』位置にすると左右の後輪が直結となります。

⑥刈り高さ調整レバー

草の刈り取り高さを調整する時に操作します。

レバーを右に回すと刈り取り高さは低く（LOW）、左に回すと高く（HI）になります。

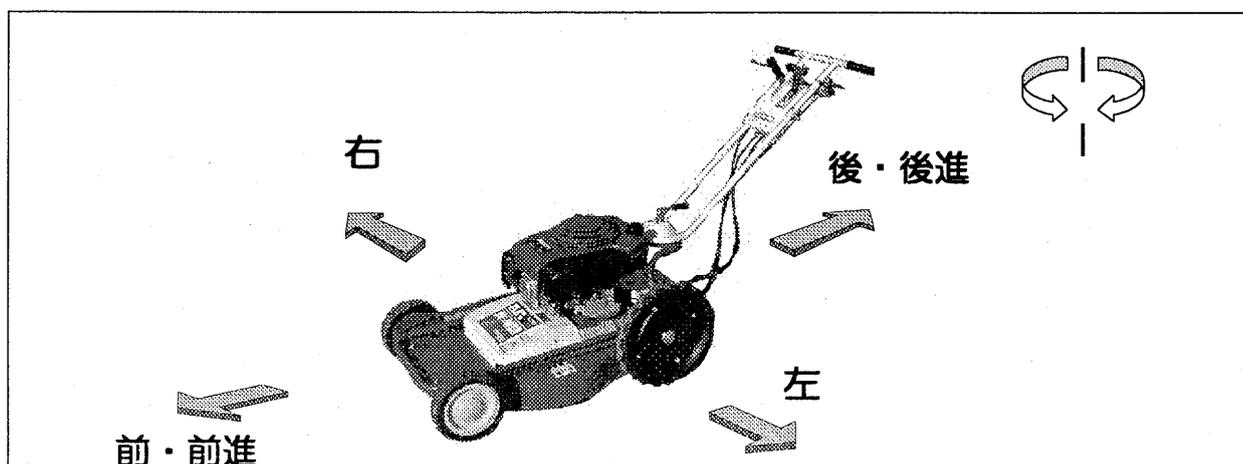
⑦ハンドル固定レバー

ハンドルの高さや方向を調整し、固定します。

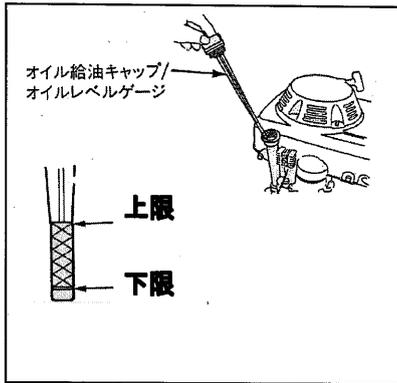
《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業員から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業員から見た方向で表します。



《エンジンをかける前に点検しましょう》



エンジンオイルの点検

エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間オイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

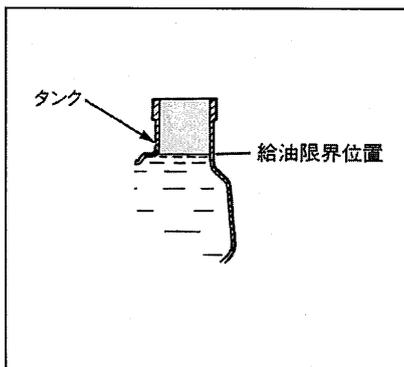
参考；

- ・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10℃以上）	SAE 30, SAE 10W-30, 又はSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20, 又はSAE 10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。



燃料の点検と補給

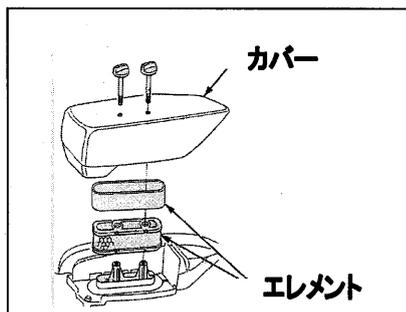
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は、2.0リットルです。〉

- ・燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
傾斜地での使用は、給油口内の規定油面上限以下で使用して下さい。

▲ 注意

- 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。



エアークリナーの点検

ネジを外し、エアークリナーカバーを外します。

エアークリナーのエLEMENTの汚れを点検します。

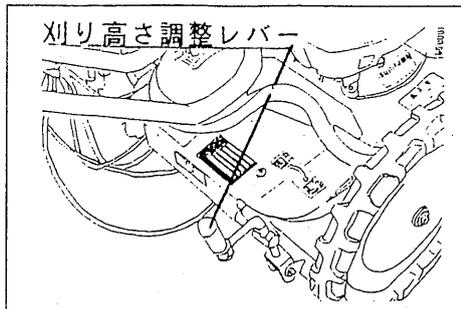
汚れがひどい場合は、清掃してください。

〈清掃の方法は、19頁参照〉

カバーを取付け、確実にネジをしめてください。

《運転操作のしかた》

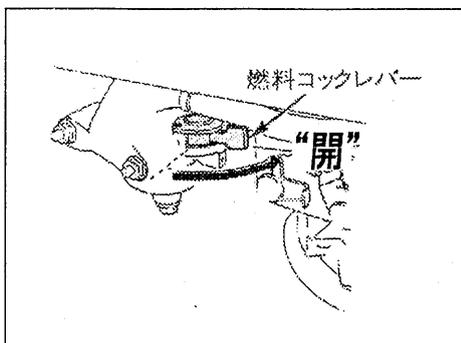
刈り高さの調整



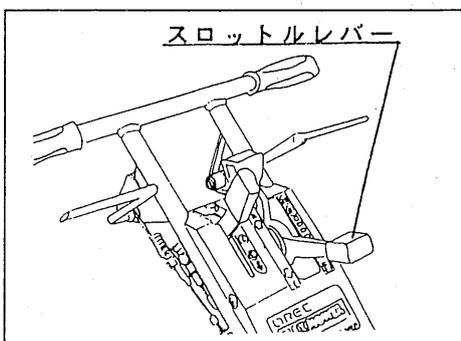
刈り高さ調整レバーにより調整します。レバーを右に回すと刈り高さが低くなり、左に回すと高くなります。

伸びた草を刈り取る時には、最初刈り取り高さを高くして刈り取り、次に刈り取りたい高さまで下げて刈り取って下さい。

エンジン始動



① 燃料コックを『開』位置にしてください。



② スロットルレバーを『N』位置にして下さい。
参考；エンジンが暖まっている時は、『HI』の位置で始動できます。



③ 機械が動かないようにしっかり押さえ、リコイルグリップをゆっくり引いて、圧縮を感じる位置から、一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

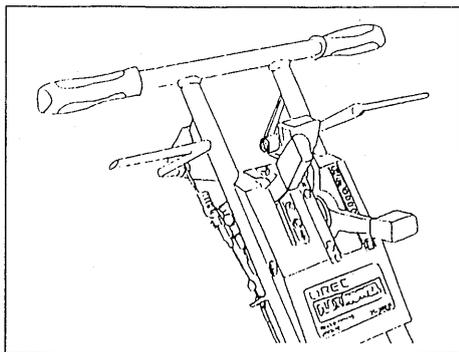
▲ 注意；

リコイルグリップを引くときに、後方に人や障害物がないことを確認して下さい。

エンジン始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

④ エンジン始動後は、スロットルレバーを『LOW』位置でしばらく(3分程度)の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

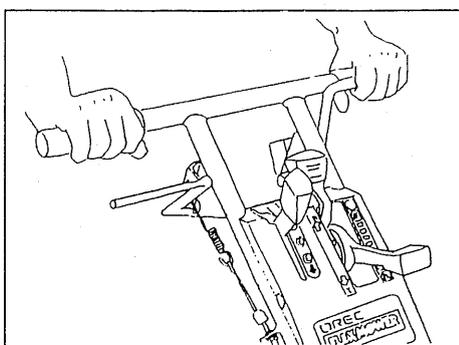
刈り取り作業



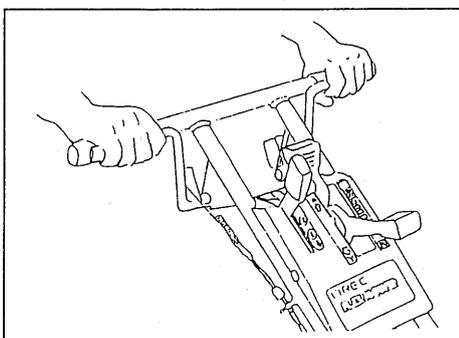
① スロットルレバーを『HI』に合わせます。

▲ 注意：

機械から離れるときは、必ずエンジンを停止して下さい。



② ナイフレバーを手前へ倒して、ナイフを回転させます。



③ 走行レバーを手前へ倒して刈り取り作業を行います。

- ・ ハンドルをしっかり握り、足元に十分注意して、作業を行って下さい。
- ・ 草の状態により速度を選んで下さい。

▲ 注意：

速度を変更する時は、必ず走行レバーを『切り』に戻し、走行クラッチを切ってから変速レバーを操作して下さい。

方向変換

・ 方向変換するときは、ナイフレバー、走行レバーを『切り』にしてハンドルを押し下げ前輪を浮かし、後輪だけで回転してください。

斜面での刈り取り

- ・ 斜面での刈り取りは、上下方向ではなく水平（等高線）方向でおこなってください。
- ・ 斜面上での方向変換は、十分注意を払ってください。

▲ 注意：

安全作業のため、10°以上の勾配の傾斜地では作業をしないでください。

作業終了後

- ・ スロットルレバーを『STOP』にし、燃料コックを閉じてください。
- ・ エンジンが冷えるまで時間をおいてください。
- ・ 各部分をよく清掃してください。

▲ 注意：

ナイフカバー内の清掃のため、本機を傾けるときは、右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジンキャブレター側を上にしてください。逆に傾けるとキャブレターの中にオイルが流入し再始動しなくなります。

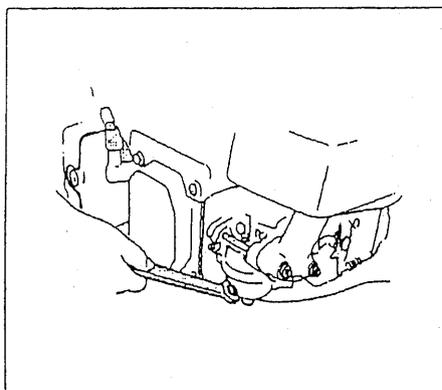
- ・ 清掃後は、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に、本機にカバーをかけて保管してください。

《長期保管のしかた》



危険：

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。
- ・本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルを浸した布で清掃して下さい。

③各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

⊕草やホコリが堆積したまま作業を続けると草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

参考：ナイフカバー内に付着した草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

⊕このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

④屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑤本機にカバー等をかけてほこりにつかないようにして下さい。

《 ナイフの点検・交換・修正のしかた 》

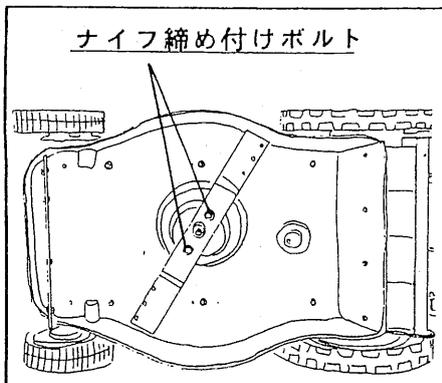
ナイフの点検・交換

◎ 作業を安全に行うために、ナイフの作業前点検を行って下さい。

⚠ 危険：機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

注意：

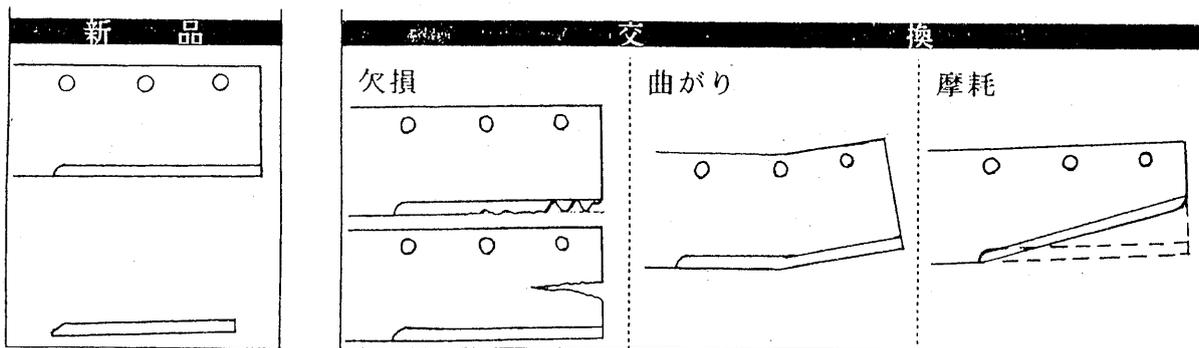
- ・本機を傾ける時は、ハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。
- ・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- ・作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ・ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、ナイフが折損して飛び出し、作業中や付近にいる人に当たったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルトも摩耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



- ①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。
- ②本機をハンドル側から見て右側を下に倒すか、前側を上へ上げて下さい。
- ③ナイフ締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。
- ④ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。下図の様に異常な状態になっていたら交換して下さい。

★交換の際には元のとおりしっかりとナイフ締め付けボルトを締めつけて下さい。

〈ナイフは、二本のボルトで取り付けられています。〉

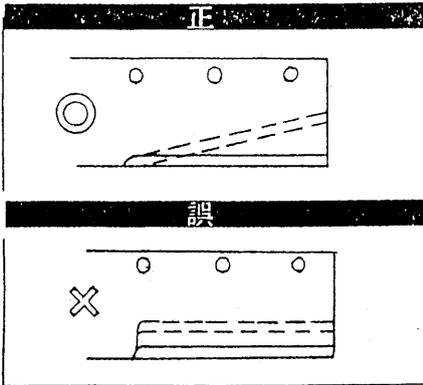


参考：

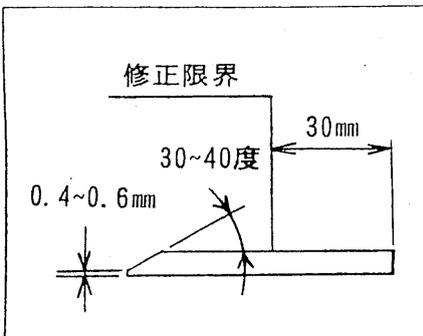
- ・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- ・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

ナイフの修正

★修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれることをご承知おき下さい。★



- ① ナイフを取り外して下さい。(頁参照)
 - ② 以下の要領でナイフを研磨して下さい。
 - ・ ナイフを研磨するときは、ナイフをしっかりと保持して下さい。
 - ・ ナイフを元の刃と平行に研磨すると、破損の原因となります。
- 左図の様に研磨して下さい。
- ・ ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研磨して下さい。



- ③ 刃先には0.4~0.6mm程度の平らな部分を残しておいて下さい。カミソリのように刃先をとがらせると、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

参考：

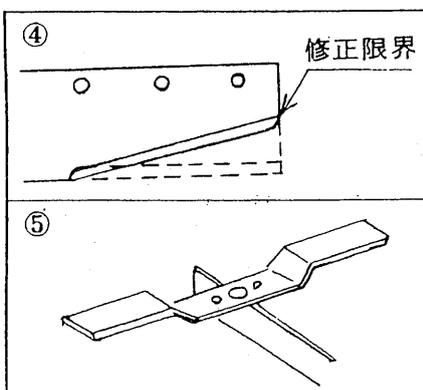
グラインダー等で研磨する際には、水をかけながらナイフ自体の温度を上げないようにして少しずつ研磨して下さい。

◇…ナイフの温度が上がり過ぎると熱変化により摩耗速度が早くなります。



危険：

- ・ グラインダーを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。

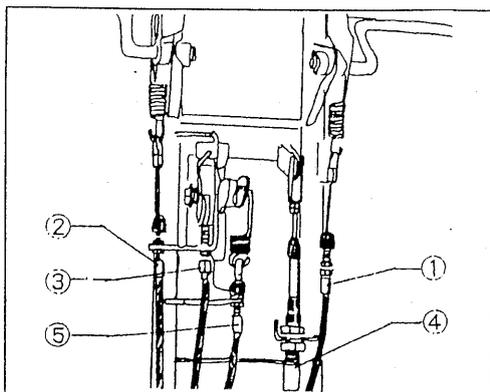


- ④ 刃先が左図のようになったら、新しいナイフと交換して下さい。
 - ⑤ 研磨後、金ノコの刃、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右どちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分再度研磨して下さい。
- バランスが取れない場合は、ナイフを交換して下さい。
- ⑥ ナイフを元のおりしっかりと取り付けて下さい。

※注意：

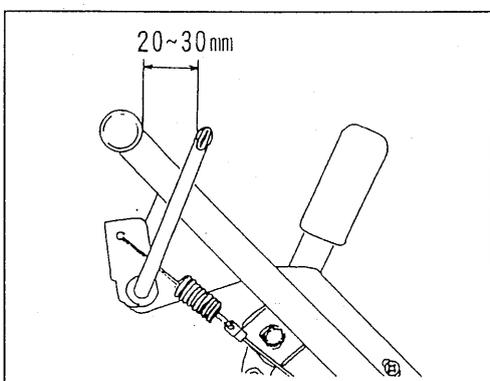
ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。

《ワイヤの調整》



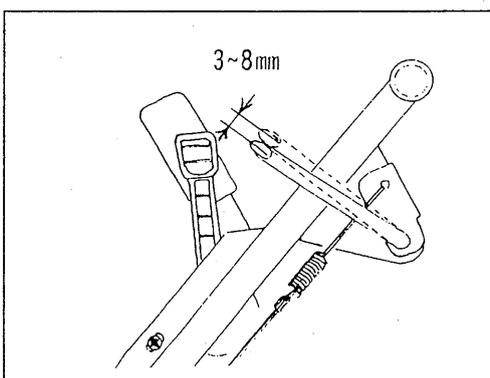
ワイヤの組みつけ位置

- ① 走行ワイヤ
- ② ナイフワイヤ
- ③ スロットルワイヤ
- ④ 変速ワイヤ
- ⑤ デフロックワイヤ



① 走行ワイヤ

- ・ 走行レバーとハンドルの間隔が 20~30mm の所で走行クラッチが『入』になるように、アジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、走行レバーを操作して、走行・停止が正しく作動することを確認して下さい。

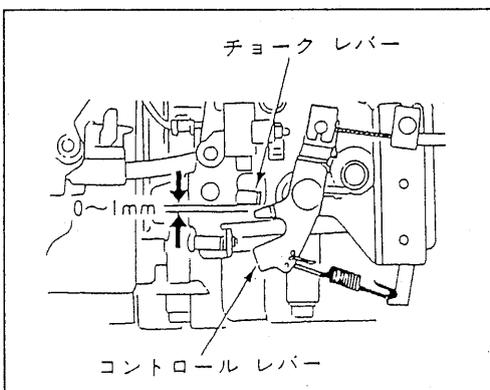


② ナイフワイヤ

- ・ ナイフレバーの遊びが 3~8mm あるようアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、ナイフレバーを操作して、ナイフが正しく回転・停止することを確認して下さい。

▲ 注意：

半クラッチ、半ブレーキにならないようにして下さい。



③ スロットルワイヤ

- ・ スロットルレバーを『HI』に合わせ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにアジャストネジを調節し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、チョーク・HI・LOW 停止でエンジンが正しく作動することを確認して下さい。

④ 変速ワイヤ

- ・ 変速ワイヤは、プッシュプル型のワイヤを使用しています。ワイヤのロッドを押し引きしてミッションを中立（N）にします。その状態で変速レバーが『N』の位置になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、変速レバーを操作して変速位置で正しく走行することを確認して下さい。

A 注意：

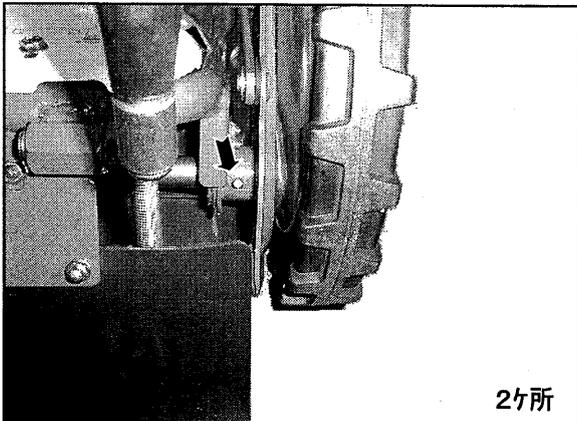
変速レバーは走行中に操作しないで下さい。

⑤ デフロックワイヤ

- ・ デフロックワイヤには、戻しバネが組み込まれています。ワイヤを軽く引いて組みつけ、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、デフロックレバーを操作してデフ・デフロックが正しく動作することを確認して下さい。

《可動部への注油》

① ドライブ軸への注油

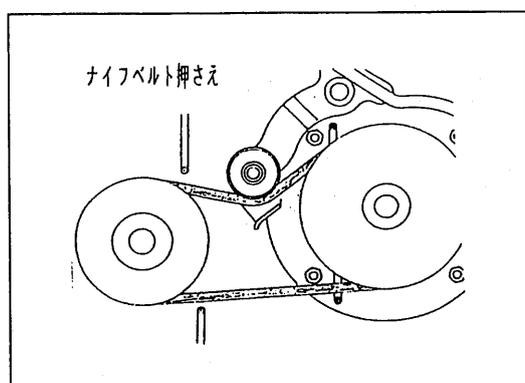


- ・ 30時間毎にグリスアップして下さい。
特にグリスアップを怠ると、潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。
左右後輪部に各1箇所、計2ヶ所あります。

《ベルトの交換とベルト押えの調整》

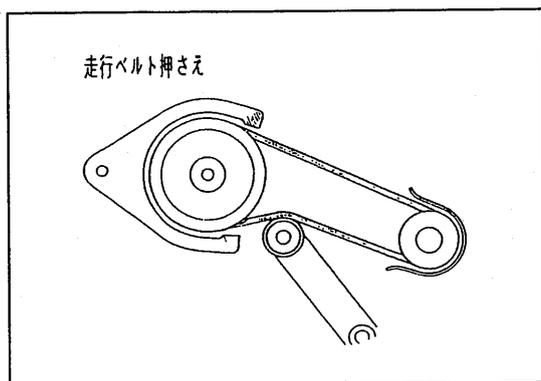
走行ベルト、ナイフベルトは共に消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

	走行ベルト	ナイフベルト
Vベルトサイズ	SA26(W400P)×1本	LB32(SG1000)×1本
調整・点検時期	初回：2～3時間目	以後：30時間運転毎



◎ナイフベルト押さえの調整

- ① ナイフベルト押さえは、本機に溶接されています。
- ② 調整を行う際は、ナイフレバーを『入り』位置にしてベルトとベルト押えの間隔が約4～6mmになるようにして下さい。
- ③ 調整後は、ナイフレバーを『切り』位置にしベルト押えがベルトを軽く押え、ベルトがプーリの溝から浮き上がり、プーリを手で回してベルトが動かないことを確認して下さい。



◎走行ベルト押えさの調整

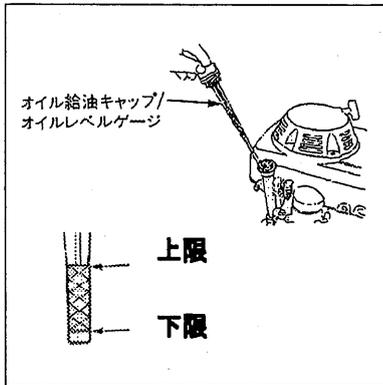
- ① エンジン側のベルト押さえは、必要以外は動かさないで下さい。
- ② ミッション側ベルト押さえは走行レバーを『入り』位置にしてベルトとの間隔が約3～5mm程度のなるように調整して下さい。
- ③ 調整後は、走行レバーを『切り』位置にしベルト押さえがベルトを軽く押さえ、ベルトがプーリの溝から浮き上がり、プーリを手で回してベルトが動かないことを確認して下さい。

ベルトの交換・調整は、エンジンを3～5分運転しナイフレバー・走行レバーを『入り』・『切り』させベルトが正常に作動することを確認して下さい。

調整後はボルト・ナット・カバーは確実に元のとおりセットして下さい。

《エンジンの点検・整備・調整のしかた》

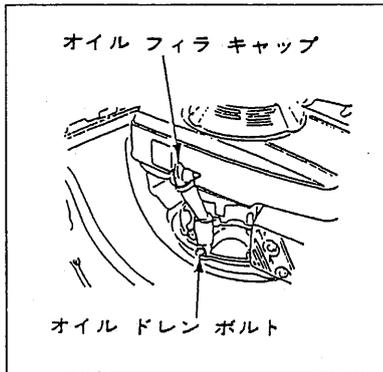
エンジンオイルの点検・補給・交換



点検・補給

- ・毎日、もしくは8時間毎に〈9頁…エンジンをかける前に〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）して下さい。

（使用するエンジンオイルの質及び量は、9頁参照）



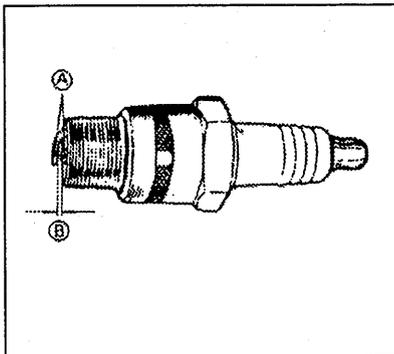
交 換

- ・初回は、5時間目、それ以降は50時間運転ごとを目安にオイルを交換してください。
- ・オイル給油キャップを外し、オールドレンボルトを外します。
- ・エンジンオイルを抜き取ります。
- ・オールドレンボルトを確実に締め付ける。
- ・〈9頁…エンジンオイルの点検〉を参考に指定のエンジンオイルを規定量給油し、オイル給油キャップを確実に締め付けてください。

〈エンジンオイル容量：0.65リットル〉

参考；エンジンオイルの交換は、暖機運転後、エンジンを停止し約5分以上経ってから火傷に注意して行ってください。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
〈使用点火プラグは、21頁の仕様書を参照〉
- ③ 点火プラグの電極隙間Ⓑを0.7～0.8mmに調整して下さい。

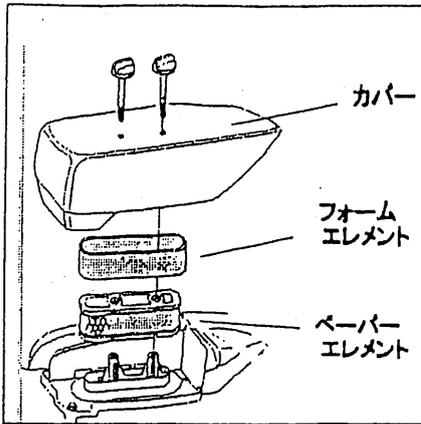
参考；締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

エアークリーナーの清掃のしかた



危険：

エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇し、火災の原因となりますので必ず定期的に清掃して下さい。



- ① 蝶ボルトを外してカバーを外して下さい。
- ② ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ③ フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル（SAE10W 30相当）に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

注意：

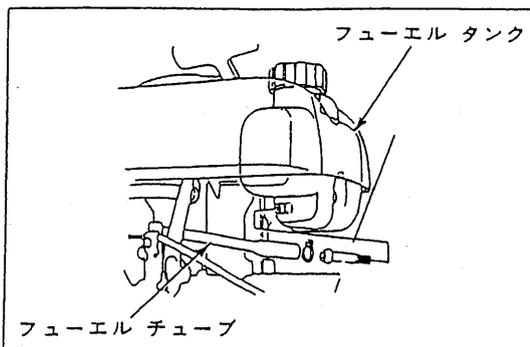
- ・ ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品と交換するか、石鹼液で洗浄（振り洗い）した後、水洗いし良く乾かして下さい。
- ・ 洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
- ・ ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
- ・ ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
- ・ 乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

● エアークリーナーの清掃、交換時期について

	清掃	交換
フォームエレメント	… 25時間毎	
ペーパーエレメント	… 50時間毎	300時間毎

☆ チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



危険： たばこや裸火照明・火気厳禁

- ・ 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・ パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

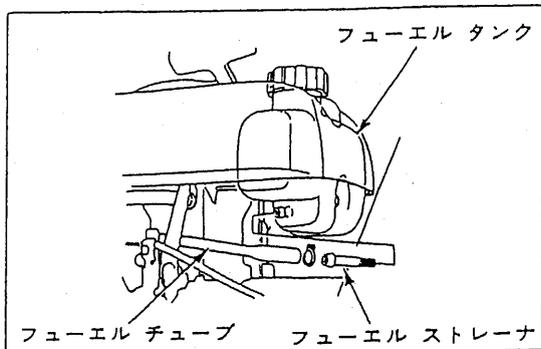
注意：

パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルターの清掃のしかた



危険： たばこや裸火照明・火気厳禁



- ・50時間使用ごとに燃料フィルターを清掃して下さい。
 - ・作業は、ホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ・ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は、危険ですから使用しないで下さい。
- ①燃料タンクの中のガソリンを全て抜いて下さい。
 - ②燃料タンク側のホースクランプ及び燃料チューブを外して下さい。
 - ③燃料タンク出口に挿入されている燃料フィルターを取り出して下さい。
 - ④燃料タンク内及び燃料フィルターに付着しているゴミを清掃して下さい。
 - ⑤元の通りに確実に組みつけて下さい。

その他の点検

▲ 注意：

- ・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・各注油箇所にて規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。
- ・本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ・各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ・作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。

《仕 様》 (参考数値)

名 称	フレックスモアー	
型 式	FL510	
全長×全幅×前高(mm)	1,550×580×965	
刈 幅(mm)	500	
刈 高(mm)	10~70	
ナイフ	バーナイフ (片面) ×1 枚	
Vベルト	(走行) SA26(W400P)×1 本 (ナイフ) LB32(SG1000)×1 本	
重 量(kg)	68	
走行クラッチ方式	ベルトテンション式クラッチ	
ナイフクラッチ方式	ブレーキ付ベルトテンション式クラッチ	
操行方式	デフ&デフロック方式	
速 度(km/m)	①1.50 ②2.47 ③3.93 (R)1.63	
作業能率(a/h)	直進性 ①7.50 ②12.35 ③19.65	
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ
	型 式	GXV160
	最大出力(PS/rpm)	5.5PS/3,600rpm
	始動方式	リコイル
	点火プラグ	W16EP-V,W16EPR-U(ND)/BPR5ES,BP5S(NGK)
	燃料タンク容量(ℓ)	2.0
	オイル容量(ℓ)	0.65

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《工具袋・同梱品明細》

部 品 名	規格・寸法	個数
取扱説明書	FL510	1
品質保証書		1
両口スパナ	10×12	1
両口スパナ	14×17	1
プラグレンチバー	6×120	1
プラグレンチ	21×100	1
ゴーグル	防曇タイプ	1

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/	備 考
1.	ナイフ FL500	80-1035-821-00	1	
2.	走行ベルト SA26(W400P)	89-6122-002602	1	
3.	ナイフベルト LB32(SG1000)	89-6123-003203	1	
4.	ナイフワイヤ	83-1035-945-00	1	
5.	走行ワイヤ	83-1035-932-00	1	
6.	スロットルワイヤ (H)	83-1022-955-10	1	
7.	変速ワイヤ	83-1035-936-00	1	
8.	デフロックワイヤ	83-1035-937-00	1	
9.	座金六角ボルト M10×P1.25×25	89-1254-100252	2	ナイフボルト
10.	危険マーク②	83-1484-921-00	2	手や足を・・・
11.	// ㊸	83-1516-922-00	1	
12.	// ㊹	83-1515-907-00	1	
13.	// ㊺	83-1516-918-00	1	
14.	警告マーク	0253-72500	1	車への乗せ降ろし・・・
15.	注意マーク⑰	83-1516-908-00	2	このカバーなしの・・・
16.	// ㊻	83-1516-915-00	1	安全の為・・・
17.	// 28	83-1035-927-00	1	横倒し・・・
18.	// (プラグ)	83-1020-928-00	1	刈り刃を点検整備・・・
19.				

《定期自主点検表》

- ★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。
- ★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付け部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○	
	⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付け部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで緩みはないか。）			○	
	*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか。）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか。）			○	
機	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
②燃料フィルタの詰まり。		著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
伝達装置	ベルト	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○		
車体	車体	亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
走行装置等	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付け状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
	タイヤ (ホイール)	①亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		②金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		③ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		④ガタ、異音。	取付け部に異音、ガタはないか。		○	○
表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取付けられているか。		○	○	

※*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《エンジン定期点検表》

エンジンを正常に働かせ、寿命を長くするためには、定期点検が必要です。

下記の表に従い、点検を実施してください。

点検項目	時間				
	毎回	25 時間毎	50 時間毎	100 時間毎	300 時間毎
エンジンオイルの点検・追加	○				
ボルト、ナットの弛み・欠落	○				
燃料、オイルの漏れ	○				
空気吸入部スクリーンの点検	○				
スイッチ、コントロールパネルの掃除	○				
②エアクリーナ、フォームフィルターの掃除		○			
ボルト、ナットの締め直し		○			
燃料フィルターの掃除			○		
①エンジンオイルの交換			○		
②エアクリーナーパーバーエレメントの掃除				○	
スパークプラグの掃除、キャップの調整				○	
燃料室の掃除				○	
③バルブクリアランスの点検・調整				○	
②エアクリーナーパーバーエレメントの交換					○
②シリンダー及びヘッドフィンの埃・ゴミの除去					○

①：はじめは、5時間運転後に行いその後は表に従う。

②：埃の激しい環境では、もっと頻繁に行う。

③：この作業を行うには、内燃機関に関する十分な技術と工具が必要です。

詳しくは、販売店にご相談ください。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。(エンジン回転をチェックする。)
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二度刈りをする。
土削りを発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈作業パターン(刈取方向等)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ベルト張力が弱い。	ナイフワイヤを調整する。
	ナイフカバー内に草が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	プーリへの草の堆積。	プーリをきれいに清掃する。
	ベルトの摩耗損傷。	新しいベルトと交換する。
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	ナイフを修正する。
	ナイフの破損。	新しいナイフと交換するか、修正する。
	ナイフネックガード内への草の堆積。	ナイフネックガードをきれいに清掃する。
	ナイフ軸が曲がっている。	ナイフ軸を交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転数が低い。	エンジン回転数を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフの回転軸周りに草が堆積、又は巻きついている。	ナイフをきれいに清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを N 位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



株式会社
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
仙台営業所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2-1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長野サービス センター	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関東営業所	〒337-0051	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800	TEL. 0480-87-3008(代) FAX. 0480-87-3009
名古屋営業所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡山営業所	〒700-0951	岡山県岡山市田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福岡営業所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿児島営業所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491